

在日大韓基督教会
宣教100~110周年
標語
感謝の百年
希望の百年
(テサロニケ第1/5:18)

1963年9月20日 第3種郵便物許可 (毎月一日発行)
2016年6月1日 (水) 第752号
発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎ 03-3202-5398
発行人/金性済・編集人/金柄鎧
info@kccj.jp (福音新聞)

オリニ主日
説教

幼子のような者

<申命記4:9、マタイ11:25>

金明均牧師 (福岡中央教会)



毎週いくつかの説教を準備し、それを宣布する。牧会者にとってそれは、神様から与えられた確かな恵みであり、祝福であると同時に、その重圧感の中で過ごすのも確かなことあります。天から毎週説教が聞こえてくることもなく、毎週特別に感動した証しができることも少なく、知識も経験もないと思いつつも、みことばを取りつがせていただいている。

経験がないと言えば、私には子どもがいません。子ども主日のメッセージを頼まれた時、出産の苦しみを味わうことになりました。子育ての幸せと苦労による自身の成長はできなかったのですが、子育てをする方々のご家庭を通して、間接的に学ばせていただくことがありました。そこから、子育ての大変さを感じさせられました。そして聖書の子どもや子孫の箇所を読む時は、神様の子とされた私たちや、教会や世界の子どもたちを考えながら読んでいます。

1.

「ただひたすら注意してあなた自身に十分気をつけ、目で見たことを忘れず、生涯心から離すことなく、子や孫たちにも語り伝えなさい。」(申命記4:9)

「あなた自身に十分気をつけ」「生涯心から離すことなく、子や孫たちにも語り伝えなさい」と書かれてありますが、これは、自分が正しく信仰することと欲に誘惑されることに気をつけ、未来のキリスト者のために福音を宣べせよ、との神様の命令だと受け取りました。信仰生活を続いていると、目に見えるものや置かれた環境などによって、初めの救いの感動が薄れることがあります。イスラエルの民がエジプトから出て、多くの恵みや、神様に従わなかった者たちがどうなったかを体験し、本当の神様を知ったけれども、これから続く生涯で、自身に十分に気をつけなければならないこと、子や孫に伝えていくことを、念を押しておっしゃっているのです。

イスラエルの民が経験したことを伝えていくことは、過去の話ではなく、現代の私たちを導かれているのも、主であります。日々、初心に戻り、生涯離れないようにして、子どもたちに、実直に諦めずに伝えていくことの大切さを感じる 것입니다。

2.

「これらのこととを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。」(マタイ11:25)

子どもから学ぶことがたくさんあります。ここで語られている幼子のような者とは、単純に欲がなくて、心が純粋なことを言うのではなく、小さいものになることを言っているのではないでしょうか。福音書の他の箇所でも、イエス様は重ねて、幼子のような者が天のみくに見ることができ、信じて受け入れる者が天国に入ることができるとおっしゃいました。私たちはがんこで自己中心的な考えが多くあり、高ぶっている者には救いの真理や本当の神様が見えない。むしろ私たちは、神様の前で、自分を無にし、欲をおろした時に、自分の傲慢さや誤った信仰に気づかされるのです。

自分の経験や考えや願いで神様のみこころを取捨選択したり、欲をかなえてほしいだけの祈りや、みことばに従わない言い訳を考えず自分は聖書の知識を知っているとか、奉仕や献金をどれだけしたかといったことで信仰があるかのように思っている。そうではなく、信仰の足りなさ、弱さを感じて、日々主を求め、人を比較して裁いたり優越感をもったりせず、低く、小さくなっている者であることです。

私たちが知った神様の救いの恵みを、まず自分自身が確信し、それを子どもたちに良き模範として示し、私たちに与えられた神様のみことばを伝えていくことが、今、私たちに与えられた主の命令であり、使命なのです。

2016年度牧師・伝道師考試及び宣教師加入考試

在日大韓基督教会の「2016年度 牧師・伝道師考試及び宣教師加入考試」を以下のように実施します。神学考試委員会細則 (<http://kccj.jp/archives/959>) 及び宣教師加入考試請願書 (<http://kccj.jp/archives/148>) を参照して申し込んでください。

一. 日時: 2016年9月22日(木) 9時~19時

※ただし、宣教師加入考試に応する者は、人事部面接を受けてから考試に臨むことになります。

二. 場所: KCC (大阪市生野区)

三. 考試科目

<牧師・伝道師考試> ①旧約聖書 ②新約聖書 ③旧約聖義 ④新約聖義 ⑤組織神学 ⑥教会史 ⑦憲法 (総会憲法・総会規則・裁判規程等) · KCCJ神学 (在日同胞史、KCCJ史、KCCJ宣教理念) ⑧面接

<宣教師加入考試> ①憲法 (総会憲法・総会規則・裁判規程等) ②面接

四. 提出書類 (各正本 2通)

<牧師・伝道師考試> ①考試請願書 (総会様式) ②地方会長推薦書 (総

会様式) ③履歴書 (総会様式) ④神学生研修会参加証明書 (伝道師応試者) ⑤最終学校卒業証明書・卒業予定証明書 ⑥最終学校成績証明書 (伝道師応試者) ⑦写真2枚

<宣教師加入考試> ①宣教師加入請願書 ②牧師按手 証明書 ③宣教師派遣・推薦状 ④宣教師 後援 約定書 (宣教費等) ⑤日本宣教志望動機書 ⑥履歴書 (総会様式) ⑦経歴証明書 ⑧総会加入理由書 ⑨最終学校卒業証明書 ⑩最終学校成績証明書 ⑪写真2枚

五. 申込期限: 2016年8月20日

六. 考試料 (8月20日までに必着)

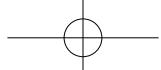
牧師考試: 2万円 / 伝道師考試: 1万円 / 宣教師加入考試: 1万円

*郵便振込口座: 000130-9-159228 (在日大韓基督教会総会)

*考試料・交通費は、応試者の所属する各教会と各機関で補助して下さい。

七. 提出先: 総会事務局 (東京都新宿区西早稲田2-3-18-52)

総会長 金性済 / 神学考試委員長 金武士 / 書記 朴栄子



地方会部

諸職研修会を開催 主題「初代教会の使命」のもと

3月13日（主日）、西部地方会諸職研修会が教育部の主催で神戸教会にて開かれた。

講師として入江喜久雄牧師（日本同盟基督教団福岡めぐみ教会）を迎へ、「初代教会の使命」（使徒言行録2:41～42）という主題で、私たちに力強い励ましと希望を与えて下さった。初代教会の信徒たちは、使徒の教えを堅く守り、靈的な愛の交わり、主の聖餐を行ない、共に力を合わせ祈り、すべてに熱心であって、使徒のみ言葉を受け入れ、毎日洗礼者が起こされたことを強調された。

いま私たちは、初代教会の使命を受け継いだ者である。この使命を継続して守り、子どもたちに伝える責任がある。西部地方会の新しい諸職員が、初代教会の使命を心に留め、各自の場所で自分に与えられた使命を全うされることを願う次第である。

●韓澤柱牧師（姫路教会）



〈東京希望キリスト教会〉

朱珍安長老就任式挙行



4月24日（主日）、東京希望キリスト教会において朱珍安長老就任式が行なわれた。張慶泰牧師の説教「自分の十字架」（マタイ16:24～25）のあと、地方会長の金根湜牧師の司式により誓約、宣布が行なわれた。

朱珍安長老は、1952年韓国で生まれ、2001年に千住キリスト教会で長老按手を受けて2013年から東京希望キリスト教会に移籍した。

〈京都教会〉

金在哲名誉長老が召天



京都教会の金在哲名誉長老が4月22日、自宅にて天に召された。享年85歳であった。

故・金在哲名誉長老は、1986年京都教会の長老に就任され、京都教会、関西地方会、在日大韓基督教会のために長年奉仕された。

〈福岡教会〉

金仁果牧師委任式挙行



4月17日（主日）福岡教会で金仁果牧師の委任式が行われた。臨時堂会長・金明均牧師の司式で、崔栄信牧師が「新しい指導者ヨシュア」（ヨシュア記1:10～18）と題して説教した。

牧師委任式は西南地方会長・朱文洪牧師の司式で始まり、誓約と宣布がなされた。金聖孝牧師が勧勉を、総幹事の金柄鎬牧師と、日本キリスト教会城南教会の澤正幸牧師が祝辞をした。また、執事として長らく奉仕して引退される金島静子、蓮本博司の名誉執事推戴式も行われた。

金仁果牧師は1953年韓国で生まれ、ソウル神学大学、立教大学、長老会神学大学を卒業し、1980年牧師按手を受けた。2005年大韓イエス教長老会（統合）から日本宣教師として派遣され岐阜教会で10年間仕えた。

〈岐阜教会〉

高誠牧師委任式挙行



4月17日（主日）岐阜教会で高誠牧師の委任式が行われた。臨時堂会長・金性済牧師の司式で、李根秀牧師（大垣教会）が「落胆しない」（コリントⅡ4:16～18）と題して説教した。牧師委任式は中部地方会長代行・権潤日牧師の司式で始まり、誓約と宣布がなされた。鄭守煥牧師（豊橋教会）と全柄玉牧師（名古屋南教会）が勧勉を、杉本和道牧師（日本基督教団各務原教会）と多田幌牧師（日本キリスト教会岐阜教会）が祝辞を述べた。

高誠牧師は、1978年韓国で生まれ、龍谷大学、東京神学大学、McCormick神学校を卒業し、2013年関西地方会において牧師按手を受けた。2012～2014年大阪教会の伝道師および副牧師を務めた。

〈武庫川教会〉

趙舜元長老就任式開催

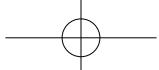
金恩美勧士就任式も同時に

4月10日（主日）武庫川教会において、趙舜元長老・金恩美勧士就任式が行なわれた。梁榮友牧師の説教「私はどんな働き人でしょうか」（テモテ第二4:9～12）のあと、司式者により誓約、宣布が行われた。

趙舜元長老は1949年生まれ、2000年神戸東部教会で長老就任され、武庫川教会に移籍した。

金恩美勧士は1955年生まれ、武庫川教会にて20年間執事として奉仕した。





<中部地方女性会>

第56回定期総会を開催

4月14日、豊橋教会にて中部地方会女性連合会の第56回定期総会が開催された。新井由貴牧師が「神に用いられる私」(ルツ記4:1~17)という題で説教した後、新井牧師による聖餐式も執り行われた。総会は、鄭仁仙会長の司会により、活動計画や、決算と予算案の審議などが承認された後、高誠牧師(岐阜教会)の説教で閉会した。



<西部地方女性会>

会長会議・研修会を開催

西部地方教会女性連合会の「会長会議及び一日研修会・料理講習会」が3月7日、武庫川教会において開催され24名が参加した。

開会礼拝は朴英子副会長の司会により始まり、梁栄友牧師(武庫川教会)による「あなたがたの信仰はどこにあるのか?」(ルカ8:22~25)と題してのメッセージがあり、祝祷をもって開会礼拝を終えた。続いて研修は料理講習会として、黄英玉先生(武庫川教会執事)から、白雪餅・黒ごまのおかゆ・太刀魚の煮物・チヂミ・コチュジャンを習い、韓国料理を堪能した。

午後からは、崔美恵子会長の司会により会長会議をおこなった。各教会女性会の会長より年間活動報告があり、各教会女性会は人数や状況が違っても教会において大切な役割を担っており、活動していることがわかり、お互い励みになった。

(報告:俞貞惠)



在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル: 東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。

10名様~200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール: 200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。

◆韓国文化教室(チャング・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座 ◆各種こどもクラス

◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月~2年、短期研修)

関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャング)

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
※朝食:コーヒー¥200(宿泊者価格)		

<関西地方女性会>

第63回定期大会を開催

3月24日、平野教会において、関西地方教会女性連合会の第63回定期大会が11教会49名の代議員が出席して開催された。開会礼拝は、金鍾權牧師より「聖書が読む女性」(ルカ10:38~42)という題で説教された後、金必順牧師の司式で聖餐式が執り行なわれた。議事は丁恵淑会長の議長で進行し、2015年度の報告や2016年活動方針、関西地方会女性部や「セットンの家」、各教会女性部の報告などが行なわれた。

(報告:趙和子)



<西南地方女性会>

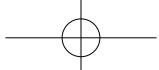
第62回定期大会を開催

4月24日、2016年度第62回定期大会を7教会29名が参加して小倉教会にて開催した。

直前に熊本地方や九州各地を襲った大地震に、西南女性会も早急な対応を迫られ、戸惑いながら、今後の支援活動を念頭に置いて積極的な話し合いがなされた。韓榮蘭会長(福岡教会)のもと、熊本教会と別府教会の被害状況、また周辺の状況を把握することが早急な課題とされた。困難な状況ではあるが、各会員が互いに支え合い、主の助けを祈りつつ歩むこととした。

李惠蘭・西南地方女性部長はマタイ書26章6~13節から、「一人の女性が高価な香油をイエスの頭に注いだ。その主を愛する行為から学び、女性会も主に喜ばれることをしよう」と奨励された。





熊本大震災被災者のために祈り、支えましょう



熊本の被災地から

4月14日午後9時26分、突然、地中から突き上げるような激しい地震(前震)が熊本を襲った。ただものではない危険を感じ、すぐに家を飛び出した。

すると、一人暮らしをしている高齢のオモニを見に行ってほしいと、遠方に住む息子さんから電話があり、マンション11階の部屋に駆けつけた。玄関に出てくるのも困難な状態にあった執事を見て安心し、それから二人で、散乱した部屋の片付けを始めた。ひっきりなしにかかる電話やメール、SNSに対応しながら片付けを終え、日付が変わって帰ろうとしたときに大きな余震があり、すべてが台無しになるほど部屋は散乱した。ここで寝るのは危険と判断して、教会に避難してもらった。

翌朝、片付けのために執事と一緒にマンションにもう一度行き、朝から晩まで片付けをして帰宅し、一段落して寝たところ、16日午前1時25分、本震が襲ってきた。

すぐに執事のマンションに向かい、教会に避難させた。自分の寝ていた部屋に戻ると、枕元すれすれに書棚が倒れていて、命が救われたことを実感した。

翌朝、執事を老健施設に送り、教会員の被害状況を確認したところ、幸いにも家は散乱しても怪我などの身体的な被害はなかった。午後から金柄鎧総幹事と博多教会の崔正剛牧師、続いて日本基督教団九州教区の三役も来て下さり、梅崎浩二教区議長は熊本教会を教区の教会と同等の扱いで支援する、と私たちに語ってくれた。週明けから届いた九州教区の支援物資は、本当に助かった。

本震直後の土曜夕方、地震におびえている熊本大学韓国人留学生4名を、大渋滞の中、博多方面のJR始発駅の荒尾駅に送った。その間、NPO法人オリーブの家(出所者の住宅提供と就労支援)の青木康正理事長より電話があり、アパートが半壊し、大雨の予報の中、雨宿りをさせてほしいと要望があり、受け入れることにした。避難所には居場所がなく、途方に暮れていた13人を

教会に避難させることができた。地震直後の主日礼拝には、オリーブの家のメンバーと共に、感激の礼拝をささげた。彼らは1ヵ月間、熊本教会で避難生活を送り、5月15日の主日礼拝と共に感謝の涙でささげ、アパートに戻っていった。その他、信徒でアパートが半壊状態の老母と娘さん宅に、どん兵衛などの食料を地区内の教会を駆け巡って集めて持て行った。

地震後1ヵ月が経ち、物資等の困窮は収まり、これからは被災者の住宅等の生活不安への支援が求められている。これからは、避難所にいる人々への支援として、九州臨床宗教師会が行なう心のケアを目的とする「カフェ・デ・モンク」(移動傾聴喫茶。無料でコーヒーなど飲み物とケーキやお菓子を提供して被災者の話を聴く)を、総会社会委員会、西南地方会、日本基督教団九州教区などの協力を得て、避難所や仮設住宅で行なっていきたいと思っている。すでに、地震の1週間後からグランメッセ熊本等でカフェを10回開催し、被災者から大変喜ばれている。

また、「要注意」と認定された教会建物の安全性を確認しなければなりませんが、ボランティアの宿泊場所として教会を提供していくことも検討しています。

被災者への支援は、長期にわたることが予想されます。祈りと息の長い支援をお願いいたします。

●金聖孝牧師(熊本教会)



熊本地震救援募金

○送金先: 郵便振替口座 00130-9-159228
口座名称 在日大韓基督教会

宣教師・神学生研修会

在日大韓基督教会に加入する宣教師と、神学校を卒業し伝道師試験を受験する者のために研修会を実施します。

◇日 時: 2016年7月4日(月)14時~15日(金)17時

◇宿泊・講義場所: 在日総会神学校(東京都足立区)

◇履修科目: 在日同胞史、KCCJ歴史、宣教理念、憲法、礼式書、韓日教会交流史、日本教会史、エキュメニカル神学、教会訪問など。

◇交通費・参加費: 総会負担

・6月20日(月)までにEメールで申請してください。(info@kccj.jp)

・詳細は総会事務局に問い合わせてください。(総幹事080-4377-3927)

在日総会神学校 校長 鄭然元